

第6回香川県学校薬剤師会教育講演会

いのちの授業

日時：平成26年9月23日（祝） 13：30～15：32

場所：かがわ国際会議場（高松シンボルタワー6階）

主催：香川県学校薬剤師会

後援：（一社）香川県薬剤師会、香川県教育委員会、
高松市教育委員会、香川県学校保健会、四国新聞社

プログラム：

○基調講演「いのちの授業に寄せて」

香川県学校薬剤師会 会長 篠原幸雄

○特別講演「ごちそうさま もらったのは 命のバトン」

子供が作る”弁当の日” 提唱者 竹下和男

内容：

○進行：香川県学校薬剤師会 いつき

- ・学校薬剤師会では、大気検査、水質検査、喫煙防止教育など、様々な活動に取り組んでいる。
- ・その取組の一つである教育講演会は、今回で6回目。「お弁当の日」提唱者の竹下先生をお招きし講演を行う。

13:31～13:33 開会挨拶

- ・絶対に季節を忘れない花、曼珠沙華が満開。
- ・竹下先生は、5～6年前までは地元の校長先生。現場を知り尽くした先生の言葉は、心にしみ入るもの。
- ・料理とは作った人から食べる人に「いのち」を与える。親が働いてきたお金で生きている、「いのち」を与えてもらっている。

13:34～13:56 基調講演 「いのちの授業に寄せて」

○講師：香川県学校薬剤師会 会長 篠原幸雄

- ・「薬剤師」は知っていても、「学校薬剤師」のことをご存じではないのでは。「学校で調剤するんですか？」との言葉。いろいろのことを取り組んでいます。
- ・昭和5年 4年生の女子が卒業式の練習中に気分が悪くなり倒れた。風邪だろうとアスピリンを飲ませて様子を見ることに。すぐに苦しみだした。アスピリンの箱の中に、「塩化水銀」が入っていた。消毒に使っていたものが入っていた。
- ・翌年、香川県の国会議員の方が、「学校に薬剤師が必要だ」という請願書を国会に出した。

○学校薬剤師の仕事は

- ・徳島文理大学 香川薬学部 取組状況の写真を例に、仕事を紹介する。
- ・プールの採水・残留塩素の測定
- ・水道水の検査 有機化合物検査



- ・学校内の明るさ・まぶしさの検査
- ・シックハウス症候群の検査 トリエンなどの有機化合物の検査 夏など気温が高くなると出てくるものがある。
- ・騒音、ダニの検査 空港に近い学校では騒音の検査 保健室のベッドのダニの検査
- ・冬場になると、空気検査 二酸化炭素・気流の検査
- ・浮遊粉塵 エアコンの入っている教室では、浮遊粉塵の検査が欠かせない。
- ・通風、温度、湿度の検査

○薬物乱用防止活動

- ・平成11年から、学校薬剤師会として本格的に取り組むように。
- ・中学校での薬物乱用防止の取組
- ・青少年の危険行動：不慮の刺傷や暴力行為、喫煙、飲酒及び薬物乱用、望まない妊娠及びH I V、不健康な食行動、運動不足

○セルフエスティーム(自尊感情)とは

- ・自己肯定感：自己評価をもとにした自尊心
- ・自尊感情：自分を尊重する／大事にする

○アンケート調査

◇あなたは少なくとも人並みには価値がある人間と思いますか？

- ・そう思う32%、ややそう思う26%

◇あなたは色々な良い素質を持っていると思いますか？

- ・そう思う15%、ややそう思う21%、どちらともいえない38%、やや思わない22%、思わない16%
- ・持っていると思う子が36%、**思わない子が38%**

◇あなたはだいたいにおいて、自分に満足していますか？

- ・そう思う8%、ややそう思う19%、どちらともいえない35%、やや思わない22%、思わない16%
- ・満足していると思う子が27%、**思わない子が38%**

◇自分は全くダメな人間だと思いませんか？

- ・そう思う15%、ややそう思う18%、どちらともいえない36%、やや思わない17%、思わない14%
- ・ダメな人間だと思わない子が31%、**ダメな人間だと思う子が33%**

- ・**自分に自信がないと思っている子の方が多い結果に。**

○学校薬剤師会のこれまでの取組

◇2010年：村上和雄先生「笑いと健康」

- ・遺伝子の研究をしている先生。笑うことで良い遺伝子が活性化する。
- ・1個の受精卵から、生まれた時には3兆個の細胞、大人では60兆個の細胞。60兆個の細胞が全てがうまく活動しているか？
- ・1万円札を60兆円分積み重ねると、富士山123個分の高さ 横に並べると、東京から神戸に到達するほどの数が60兆。
- ・生きているだけで「すばらしい」と考えていい。

◇2011年3月13日 水谷修先生「未来ある子供たちへ」

- ・夜回り先生

◇2012年3月18日 岡村清二先生

- ・手作りヨットで太平洋横断、県会議員で、通信制の子供たちの施設を運営

◇2013年3月10日 鈴木中人先生「いのちを大切にすることを育む」

- ・子供が小児ガンとなり・・・

◇2014年3月2日 腰塚勇人先生「命の授業 ～今のしあわせに気づくことから夢はひろがる～」

- ・脊椎損傷

◇2014年9月23日 竹下和男先生「ごちそうさま もらったのは命のバトン」

- ・自分でお弁当を作ることで、自分に自信がつき、社会人になっても、色々なことに対応することが出来る。

13:56～13:58 プロフィール紹介

- ・1949年、香川県生まれ。香川大学教育学部卒。
- ・小学校教員9年、中学校教員10年、教育行政職9年を経て、2000年度より綾南町立滝宮小学校校長、2003年度より国分寺町立国分寺中学校校長、2008年度より綾川町立綾上中学校校長を歴任。
- ・2011年度よりフリーで執筆、講演活動中。
- ・著書「できる！を伸ばす弁当の日」（共同通信社）、「” 弁当の日 ” がやってきた」（自然食通信社）等。

13:58～15:28 特別講演「ごちそうさま もらったのは 命のバトン」

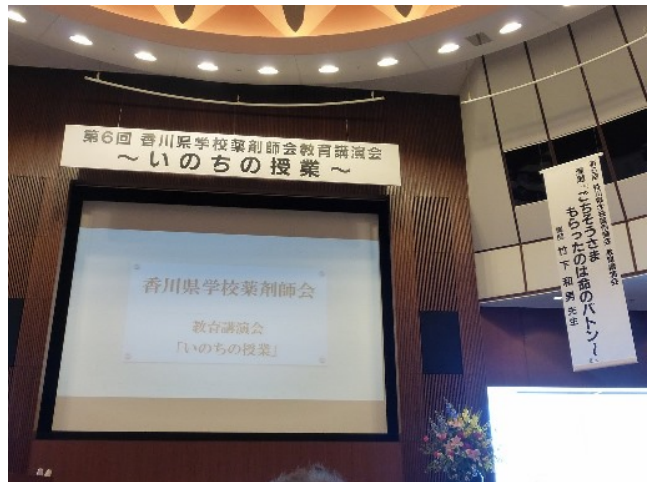
○講師：子供が作る” 弁当の日 ” 提唱者 竹下和男

○はじめに

- ・パプアニューギニアに1週間行っていた。一番思ったことは「ご先祖に感謝したい」こと。
- ・パプアニューギニアは、旧石器時代の世界。いまだに、結核、チフス、赤痢、マラリアで多くの方が亡くなる。
- ・現地の病院は大変不潔な状態。怪我をした人と、結核の患者さんが同じ部屋にいる。怪我で入院し治って退院したら、結核で再度入院するようなことに。
- ・日本で医学を勉強し、がんばっているなので何か支援をしたいと思っている。

○パプアニューギニアの年に一度の祭り

- ・口の中が真っ赤。壊血病かと思ったが、ビートルナッツという実を噛んでいると、口の中が真っ赤になる。覚醒剤のような効果があり、大人も、子供もやっている。
- ・国として止めたいが、止めるという積極的な意欲がなく、やめることによる弊害がある。ナッツを噛むことをやめることで、お酒にふれるようになり、今までになかった（お酒を飲んだことはない）ことが起きるおそれがある。お酒に触れさせるよりも、ナッツを噛ませておいた方がよい。
- ・日本は戦後60年で今のような状態にまでなった。教育のおかげ。



○世界から注目され

- ・金などが発見され、世界から注目され、金持ちになる人も。
- ・竪穴式住居のような家に住み、まわりにはスナック菓子の袋やプラスチックのゴミの山。ゴミの量は、半端ではない。
- ・今までは、食べたもののゴミは、住居のまわりに捨てるのが常識の生活。それで良かった生活。
- ・現地の人たちは、文字が読めない、字が書けない、雇用主との関係が理解できない。
- ・都会で経験、教育することで、「このままではダメだ」と気づく。

○日本では

- ・日本では、全国で「おふれ」が読めるように、読み聞かせられるようにと、寺小屋を作り、識字率が飛躍的に高まった。
- ・明治初期に、外国を見てきて、植民地の時代、日本は危ないと危機感を持った。

○千恵さんの子育て

- ・千恵さんは若くして乳ガンにかかり、左の乳房を切除。
- ・抗ガン剤はおなかの中の赤ちゃんに影響を与えるので、自分の命を守るために、赤ちゃんを墮

ろすことを決意し病院に行く。

- ・病院で「元気に赤ちゃんは育っていますよ」と映像で見せてくれた。心臓が動いている。「私、この赤ちゃんを産みます」と決意する。

○命のバトンへの認識が希薄

- ・最近の子供は「親から授かった命だ」という意識が少ない。自分が「親になる」との自覚も少ない。自分の体が、次の世代につながっていくんだとの認識がない。
- ・「俺なんていない方がいいと思っているんだろう」と突っかかってくる生徒に、
- ・20数万人の赤ちゃんが人工中絶で処置されている。命が粗末にされている時代。命のバトンを伝えることが出来ない時代。
- ・この子を「産んで育てよう」と決断してくれたことで、今あなたはこの世にいる。
- ・今日の今日まで生きているのは、誰のおかげか考えられる人になりなさい。
- ・私は、じいちゃんとはあちゃんに育てられている、毎日喧嘩をして生きている。先生の話聞いたから、今日は喧嘩をしないことにします。
- ・過去に縛られるな。未来はあなたが作っていけるのだから。親が離婚し、ばあちゃん、じいちゃんに育てられようとも、過去に縛られるな。
- ・「できちゃった婚」なんてするな！ 簡単に離婚するな！

○母乳は血液と同じ 血液は食べたもので作られる

- ・千恵さんは、赤ちゃんに母乳を飲ませるために、抗ガン剤を使わずにいた。
- ・ある時、赤ちゃんが飲まなくなった。それは千恵さんのガンが再発したタイミングだった。
- ・母乳は血液と同じ成分。血液は食べたもので作られる。
- ・お母さん 安武千恵 転移をしたガンが手術できる段階ではなく、余命数ヶ月。

○スライドショー

- ・BGM: woh woh
はなみずき (やすたけ千恵 お母さんは、もと音楽の先生)

○親が子にしてあげられること

- ・25歳の時にガンであることがわかる。
- ・安武はなちゃんが生まれる
- ・育児に励む千恵さんに、ガンが再発
- ・ブログに
- ・早くしないと間に合わない いろいろなことをはなちゃんに教えておかなければ・・・
- ・4歳の誕生
- ・5歳 心を鬼にして料理を教え始める
- ・その5ヶ月後千恵さんは亡くなった。

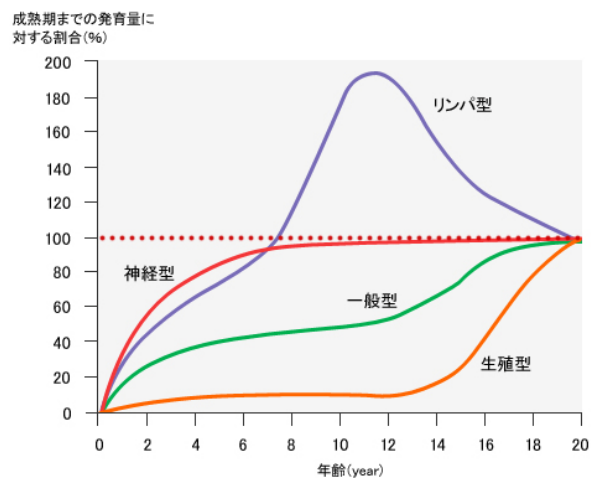
- ・卒園遠足のお弁当はお父さんが作りました。
- ・自分の身の回りのことは、自分ですること。
- ・愛された子供はすてきな大人になる。
- ・我が子に伝えたい、一生の宝物。
- ・「はなちゃんのおみそ汁」
- ・毎朝、カツオブシを削って出汁をとり、おみそ汁を作る。

○泣かせる

- ・10年前、このスライドショーを見て泣いた子どもは、小学生では1%、中学生でも7~8%
- ・今は、小学生30~40% 中学生40~50% 命のバトンの話をして泣かせる。
- ・他人の小さな子供が味噌汁を作っていることに、先生が泣くのを見て、生徒がカルチャーショック。
- ・泣いている先生を見て、子供は何かを感じる。赤の他人のことを、泣いてしまうほど先生が考えていることに気づく。先生を慕うようになる。

○スキャモンの発達曲線

- ・脳や神経：3歳で70%は出来上がっている
心臓と脳の細胞は生涯いれかわらない → 三つ子の魂百まで
- ・授業中に座ってられない 人の話をちゃんと聞くことが出来ない 五感が発達する機会を失っている
- ・6歳で小学校入学 脳の発達は完了している
「発達障害」「適応生涯」 改善するすべが見つからない → 0歳以前から気をつけることが必要、子供を産む前の思春期から心豊かに生きることが必要。



- ・前頭前野：ルールを守る、欲望をコントロールできる脳を「人間脳」と呼ぶ。
- ・友達との付き合い、恋愛、親戚付き合い、会社付き合いで「人間脳」が形成されるのに、家の手伝いはさせずに「塾に行っていればい」との子育て。 → ルールを守れない子に
- ・生活をするという基本を、「塾に行って、勝ち組になればいい」とさせずに生活させてきている。
- ・リンパ球：12歳頃には190%まで発達し、20歳で100%に戻る → 子供の頃の免疫力は大人の2倍ということ
- ・失敗するチャンスを与えなさい。怪我をしてもいいように、リンパは大人の2倍の能力が備わ

っている。子供は風の子。

- ・生殖型：次世代を育むための生殖機能は、他の機能に比べて一番成長が遅くなっている。中学生で20%ほど、15歳以降で残りの成長をするようになっている。
- ・「できちゃった婚するなよ」 ← 子供を産み育てる心の準備や経済的な能力が整っていない

○この子を19歳で生みましたというお母さん

- ・5人のお母さんが自分の子供の手つないで、おしゃべりをしている。
- ・「おむつを替えるたびに臭いし、汚いし、ギャアギャア泣いて、何で泣いているか説明もしてくれず、どこに行くにも邪魔。こんな子供を産むんじゃなかった」と・・・。
- ・自分と同じ年のお母さんたち。私は子育てが楽しい。私はおかしいと思って生きてきたが、先生の話の切いて、理由がわかりました。
- ・おばあちゃんが、私が小さいときに「自分が作った料理がおいしいって食べてくれたら、うれしいもんやで」と、料理やお菓子の作り方を教えてもらった。私が作った料理がおいしいと言ってもらえる生活を続けてきた。
- ・この子にあれを作って食べさせよう。ものを作って食べさせることの楽しさを知っている。
- ・おばあちゃんが孫の私に教えてくれた。命を大切にすることというのを台所で教えてくれた。

○ある女子大生の食

- ・1日に食べたものを全て写真に撮って提出させた。
- ・砂糖のとりすぎが、「新型うつ病」のきっかけ。
- ・親が食べさせている 朝、ゆっくりと朝食を食べられずに登校しようとするところに、「これでも食べて行きなさい」と菓子パンだけを渡されて・・・ ←親が炭水化物だけの食事の癖をつけている
- ・食事とはたっぷり甘いもの（炭水化物）を食べることと、体や心に刷り込まれている。
- ・ある栄養士 自分はスナック菓子を食べて、ジュースを飲んで カロリー計算も献立も作れるのに、料理は出来ない。

◇置かれた環境に適応する 癖になっている

- ・人は母乳を飲んでいればいい。乳製品をとる必要はない。
- ・生殖器を成熟させる15～20歳の間に、ちゃんとした食べ物を食べていない。だって、料理の仕方、料理の楽しさを知らないから。

○料理の仕方を知るのは、小学生から

- ・料理の仕方、料理の楽しさを知るのは、小学生からでしょう。
- ・はなちゃんは、朝からカツオブシを削っている自分を普通だと思っていて、かわいそうだとは思っていない。
- ・味覚の発達は3～9歳の間だけ。自然の中の毒を見分けられる。親の味を追跡することが、「安

全・安心」な味。

- ・子供が料理に関心を持ち始めるのは、5歳がピークで、10歳以上では5%未満になり、興味を示さなくなる。
- ・世の中、生活が豊かになり、子供の味覚がダメになってきた。苦い、渋いがわかる学生は3割しかない。 → 野菜は味がない。ドレッシングやマヨネーズをかけたら食べられる。

○こんばん何食べたい？

- ・9歳までは、何を食べたいかを聞く必要はない。
- ・旬の季節の食べ物で、料理をし、旬の味を食べさせればいい。
- ・子供に食べたいものを聞いても、「焼き肉、すし、・・・」 季節のものではない。
- ・おばあちゃんがちゃんと料理を教えてくれたので、この子にあれを食べさせようと、献立を考えたり、料理をしている時間が楽しい。片づけをしておいたら、この次の準備が簡単に済むと、片づけも楽しい。
- ・子育てが楽しいと思う心の根本は、おばあちゃんが台所で教えてくれたんです。

- ・あなたに出来ることを、真剣に考えてくれませんか。

○弁当の日

- ・PTAの総会 「弁当の日」をすと言ったとたん、数百人の親からのブーイング。
 - ①材料の買い出し、料理、片づけまで全てを子供たちにやらせる。親は手伝わないで。
 - ②弁当づくりは5年と6年生 家庭科が始まる5年生から、必要なことは全て学校で教える。
- ↓
- これでやっと親は安心した。

○滝宮小学校

- ・よくぞ「弁当の日」を始めてくれた。大学生になり、自分は料理が出来る。まわりの友達は何も出来ない。良く作る55% まあまあ作れる15%
- ・人間は人に喜んでもらうことで進化してきた。今は出来なくても、出来るようになろうと進化していく。

○命のバトンタッチ

- ・自分の食べるもの 自分の体に溜まった悪いものを体の外に出す術がなく、赤ちゃんとなって出てくる。その例が水俣病。
- ・自分が何を食べるかが、自分の身体をつくり、次の世代(赤ちゃん)へとつながっていく。

○感謝弁当

- ・BGM 大橋卓弥 ありがとう
- ・今は食べる時間が違う、食べる物が違う 親子の絆は食事を通じて形成されていくのに・・・

○二つのメッセージ

①「子育てが楽しい」と言いきる親世代を作る

- ・子育てを嫌がった親に育てられた子供は、子育てが嫌な親になる。
- ・次世代へのプレゼント

②「今よりもいい社会を次世代に伝える」と言いきる大人を作る

○小説 「お弁当を作ったら」竹下和雄

- ・実際にあった話を、その人だとわからないように、脚色してある。
- ・65歳ぐらいの女性 「私、今日からはなちゃんになる」 農家に嫁ぎ、姑さんが全て食事を作ってくれた。スーパーに行けば、出来合いの物があり、一度も料理をしたことがない。
- ・「先生、孫が生まれそうです。私が孫に料理を教えてあげたいんです。今日から、台所に立ちます」
- ・子供には教えられなかった料理を、孫に教えたい。

○私の話を切いたからには、行動に移してください。男女を問わず、年齢を問わず。

15:28~15:30

- ・私は、孫にお手伝いをさせてこなかったが、お嫁さんは、晩ご飯が遅くなっても子供に手伝わせていた。

15:30~15:32 閉会挨拶 いなもり

- ・私には息子二人がいるが、自分で料理するのが楽しくてしょうがない。
- ・人間は、繰り返される環境に適用する 是非、みなさんも実践を。

— 以上 —